

平成 29 年度医療事業部 第 2 回研修会(報告)

主 催 (公社) 熊本県栄養士会 医療事業部

日 時 平成 29 年 7 月 22 日 (土) 10:00~16:00

会 場 名 熊本市医師会館

◇1. 講義 『栄養士に求められる緩和ケア』

演者: 熊本大学医学部附属病院 麻酔科・緩和ケアセンター 特任教授 吉武 淳先生

◇2. 講義 『わかりやすく、深く知りたい緩和ケアの実際』

演者: 熊本大学医学部附属病院 麻酔科・緩和ケアセンター 鳥崎 哲平先生

< 吉武先生のご講演 >

吉武先生には栄養士に求められる緩和ケアについて講義をしていただきました。緩和ケアとはがん等重い病気に伴う心と体の痛みを和らげることを目的としたケアです。終末期だけではなく、重い病気と診断された時から始めるべきであり、ご病気の方だけではなく、その家族の方々への対応も重要であると教えていただきました。患者様がその人らしく、より豊かな人生を送る上で、食を担っている栄養士の支えも重要であり、栄養士は使命感と覚悟を持ってケアに携わってほしいと話されました。また、吉武先生には目の前にいる患者様をよく見て食を考える事の大切さについても教えていただきました。いろいろな症状に苦しんでいる患者さんに寄り添い、おいしいと喜んで食べていただけるような食事を提供していく事の大事さを改めて学ぶことができました。「食を制する者、生命力を制す！」と力強い言葉と共に、今後栄養士に行ってほしい活動(熊本版レシピ集の作成、介護者からの電話相談など)についてもお話いただき、緩和ケアにおける私たち栄養士の役割とはどのようなものか深く考える機会となりました。

< 鳥崎先生のご講演 >

午後からは鳥崎先生に、緩和ケアの実際について症例を交えながら講義と演習をしていただきました。症例をもとに鳥崎先生から出された質問に対して参加者はグループワークを行い、その結果をグループごとに発表をしました。終末期の食事指導など難しい対応を求められる質問でしたが、参加者の方は皆熱心に意見を出し合いながら真剣にグループで話し合われていました。様々な症例を通して、緩和ケアとは特別なものではなくもっと身近なもので、病気になった人がその人らしい人生を送るための思いやりの医療であると教えていただきました。栄養士も緩和ケアチームの一員として食事療法に関する正しい知識を持ち、患者様一人一人に思いやりの心で寄り添い、食を通して患者様の QOL の改善を支援していくことが大切であると学ぶことができました。

今回の研修会は 110 人ほどの参加者がありました。先生方の講義の後には参加者の皆さんからの質問も多数あり、大変活発な研修会となりました。今後の栄養業務に大いに役に立つ研修内容でした。講師の吉武先生、鳥崎先生、ありがとうございました。